



歌手の本田美奈子さんが急性骨髄性白血病のため38歳で亡くなりました。同じ病気と闘っている人たちにはつらいニュースです。

同じ病魔と闘った経験がある俳優の渡辺謙さんは「才能のある、若い方が亡くなられるのはつらい。ただ、すごく元気だったころも、発病した以降も、生きることと向かい合って人生をまっとうされたと思う」とした上で「同じ病気を経験したものとして、本田さんはただつらく、悲しんでほしいとは思っていない。病気と闘っている患者、家族に、希望をきちんと持ってもらいたいと思っているはずだと思う」と話しました。

そのとおりだと思います。本田さん自身は病棟で共に闘う仲間と一緒に回復を誓っていたと思います。その意思と彼女の前向きに生きる姿勢は我々も受け継ぎたいと思います。

有名人が病気で亡くなるとその病気の恐ろしさが強調されますが、一方で病気と闘い頑張っている人たち、また病気を克服した人たちも多くいます。マスコミの報道はそうしたバランスが必要だと思います。

<第124回 ほほえみの会 >

2人が参加しました。

<第125回 ほほえみの会 >

奈良医師や初参加の方含め8人が参加しました。

▽ 4歳男の子、急性リンパ性白血病。治療を始めて1年、定期的に治療をしているが高熱が出たため入院した。単なる風邪だと思いたいが、高熱の出方が病気が発覚したときと同様なので再発ではないかと心配だ。奈良先生からは寛解後も治療のダメージから高熱が出ることは時折あるとのお話がありました。

▽ 小学5年女の子、リンパ性白血病。体に青あざが出て消えないため病院にいったところ病気が分かり、県立がんセンターに入院をした。その後、医師の勧めでこども病院に転院した。こども病院には同じ年代の子が数人いるのでいい。また、寛解から5年がたてば大丈夫と聞くが本当だろうか。という疑問が出ました。

5年後の再発については、過去のデータで再発した人の98%が5年以内ということで、その後は全くないということではない。では治療を長くすれば良いかと言うことでもない。治療をするということは体へのダメージがあることなので、晩期障害のことも考えて治療は昔より短くなっている、とのことでした。

▽ 小学5年女の子、リンパ性白血病。目に異常が出てものが茶色に見えたので目医者に行ったが目には異常が無く病院の検査で病気が分かる。

治療を始めて1年がたち、本来なら外来治療になる時期だが遅れている。治療がうまく進まないのが心配とのこと。皆さんからは治療が予定通りいかないのは誰でもあることだとの体験話がありました。

▽ 院内学級は地元の学校から籍を移さないといけませんが、院内学級に移ってから地元の学校に行っても体験学習ということで授業を受けられる。逆に院内学級では地元の学校に籍があると授業が受けられない。籍にこだわることはないのではないかと意見がありました。

▽ 「血液腫瘍科」という名称は良くないので、変えてもらえないかという意見もありました。

病院では今後、「フォローアップ外来」の検討もしていくとのこと。

次回は **12月11日(日)** 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>